

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第2回会合議事概要

1. 日 時 : 平成30年10月16日(火) 10:00~12:00
 2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館4階416会議室
 3. 議 事 : (1) 議員の交代について
(2) 内閣府事業 理工系女性人材育成事業について
 - ・事業概要について
 - ・理工系女子学生の現状について(STEM Girls Ambassador東京大学工学部 杉本雛乃氏)
(3) 公益社団法人ガールスカウト日本連盟の男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組について
(公益社団法人ガールスカウト日本連盟事業総括部長 片岡麻里氏)
(公益社団法人ガールスカウト日本連盟神奈川県連盟所属 川村渚氏)
(4) 意見交換
4. 出席者 :
- (有識者議員)
飯田議員、大石議員、大崎議員、大津議員、徳倉議員、林議員
- (団体推薦議員)
田丸議員、花岡議員、降旗議員、木下議員、富澤議員、上村議員、東福寺議員、岩田議員、赤池議員、海野議員、久保議員、安川氏(功刀議員代理)、金野議員、小倉議員、西立野議員、梶原議員、名取議員、太田議員、清塚議員、佐藤議員
- (発表者)
・内閣府男女共同参画局推進課政策調査員 小林 美紀氏
・STEM Girls Ambassador東京大学工学部4年生 杉本 雛乃氏
・公益社団法人ガールスカウト日本連盟事業統括部長 片岡 麻里氏
・公益社団法人ガールスカウト日本連盟 神奈川県連盟会員 川村 渚氏
- (事務局)
池永 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、栗田 内閣府男女共同参画局総務課長、吉田 内閣府男女共同参画局総務課企画官、上西 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○議事 1 について、徳倉コーディネーターより交替のあった団体推薦議員について紹介があった。

○議事 2 について、内閣府で行っている理工系女性人材育成事業について資料 1 に基づき内閣府男女共同参画局推進課 小林政策調査員より説明が行われた。その後、「理工系女子学生の現状について」STEM Girls Ambassador である杉本氏より発表が行われた。発表を踏まえ、意見交換を行った。

- ・研究以外にも様々な活動をされているが、例えばこのような研究以外の活動をするに研究時間を確保することが難しいといった話を聞くが、杉本さんの場合、何か支障になることはないか。また今、AI などの影響で、今後求められる職業は理系の職業だと考えられるほか、一部の企業では理系の知識がないと厳しいといった話も伺う。現に、理系の仲間や女性も少ないのではないかと思われるが、理系がうらやましいと思われたり、就職に関して動きがあったりするのかな。

⇒一つ目の質問に関しては、私はまだ研究者ではないが、他の学生たちよりも研究一筋にはできていない部分は正直ある。ただそれでも、活動を通じて女性を増やすことは大事だと思っているので、何か方法がないかと日々模索しているところ。二つ目に関しては、私が大学に入ったときに比べて理系の需要が増えているということは、肌で感じている。同世代からは具体的な影響はまだあまり聞いていないが、もう少し下の世代では、将来の夢がエンジニアと言っている子も多いといった話も聞いており、少しずつ、社会の変化が、理系人材の需要に変化を与えていると感じる。

○議事 3 について、「公益社団法人ガールスカウト日本連盟の男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組について」を資料 2-1、2-2、2-3 に基づき公益社団法人ガールスカウト日本連盟事業統括部長 片岡氏より発表が行われた後、公益社団法人ガールスカウト日本連盟で実際に活動を行ってきたことを踏まえての所感について、公益社団法人ガールスカウト日本連盟 神奈川県連盟会員 川村氏より発表が行われた。その後、意見交換が行われた。

- ・ 現在、ボーイスカウトでも女子の受け入れもしている団もあると聞いている。そうした中で、ボーイスカウトではなくて、ガールスカウトなのだということで、ガールスカウトの意義についてお伺いしたい。

⇒ 1 つには、女の子が自立をして自分というものを確立していく上で、大人の関わりはとても重要で、男の子だからこう、女の子だからこうということを決めつけない自由さが必要である。日本の社会だと、男性はこうあるべきだ女性はこうあるべきだというのは、女性も男性も持っていると思うが、極力そのことは廃して、女性のロールモデルを見せていくということに、非常に重要性を感じている。暴力の話でも女性ばかりが被害を受けるわけではないだろうが、女性として自分たちの権利をどう考え、自分たちでどう守っていくのかということに団体としてもフォーカスをしているので、ボーイスカウトのように、男女が一緒にいるというよりも、まずは女の子たちだけでやっていくことも必要だと考えている。その上で社会には男性も女性も

いるので、男の人たちの協力、女の人たちの協力、どちらの意識も変えていかなければいけないのでということ、団体でも現在議論している。

○議事 4 について、「男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組一覧」を資料 3-1、3-2 に基づき意見交換を行った。主な意見は次の通り。

- ・悩んでいる案件ごと検索ができる良いのではないか。悩んでいる子は、「デート DV」という言葉を知らないと思うので、そういうものがあると良いのではないか。
- ・例えば高校生なら高校生、大学生なら大学生、就職するタイミングで、そういうライフステージに合わせて、ある程度自治体ごとで検索できると良いのではないか。
- ・取組名称と対象者がミスマッチではないか。「デート DV」という言葉がそもそも浸透しているかということもあるのでわかりやすい名称で記載するのが良いのではないか。
- ・政治に関する男女共同参画の法律が施行されたのでそういった観点も入れると良いのではないか。

意見を踏まえて今後一覧表について事務局にて作成を行い、公表することとなった。

○議事 4 について、本日の発表を踏まえた意見交換を行った。

- ・今後のチーム会について、御発表いただいた内容についてそれがそれぞれの現場にどう反映できるか、もしくはそれに対する課題ということの意見交換を行えると良いのではないか。
- ・研究者に占める女性割合は低く、研究者の段階になってから女性が少ないといっても、そもそも理工系分野を学ぶ学生自体が少ないので、この層を増やすことが重要。そのためには、女子中高生への働きかけが必要であり、女子中高生向けのシンポジウムも開催しているが、シンポジウムに来る層は、ある程度科学技術や理工系分野に興味がある人が多く、進路に迷っている人や、科学技術や理工系分野にあまり興味関心が高くない層にどう働きかけるのかということも課題の一つである。また、中高生だけでなく、更にその下の世代である小学生・幼少期においても、科学技術なり、理数科目なりに興味を持ってもらうために、どうしたらいいのだろうかということも重要。引き続き検討してまいりたい。
- ・理系への進学については、塾の先生の影響も大きいのではないか。塾産業等にも、何かできることがあるのではないか。当団体でもプログラミングなどを使ったイベントをやっており、理系を知るきっかけは、いろいろな年代でつくれると思うので、引き続き取り組んでまいりたい。
- ・塾への働きかけというのは、すごく共感する。また企業で採用などを担当していると、優秀な理工系の学生を採りたいと一生懸命やるが、人材が少ないということを実感する。そういった中で留学生には優秀な人が多い。企業は国籍不問で、優秀な学生を採るという立場であるので、議論は危機感を持って、一緒に進めていきたい。

○最後に、徳倉コーディネーターより、今後のスケジュールについては事務局より改めて連絡することの連絡を行った。

以 上